祝　辞

新潟商業高等学校の第七十二回卒業証書授与式にあたり、同窓会を代表してお祝いと激励の言葉を述べさせていただきます。

三百六十一人の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また保護者の皆様に心よりお祝い申し上げます。

本来なら今日は東京五輪開催の年に歩調を合わせるかのように新校舎も落成し、晴れやかなムードで皆さんを祝福するはずでした。

ご承知のように新型コロナウイルスの急速な感染拡大で、国を挙げて緊急事態に対応しなければならず、卒業生と保護者及び先生を中心の式典になった次第です。

感染の猛威は五大陸から世界全域に拡大の兆しです。日本も国の在立基盤をも揺るがしかねないウイルスの攻勢に背水の陣です。皆さんにとっても大きな試練の時であります。

栄えある卒業証書を手にされた皆さんは本校伝統の「文武両道」の心で学業と課外の文化・スポーツ活動に大きな成果を収めました。

昨年十月開催の「全国産業教育フェア新潟大会」でも、大会運営から実績発表まで新商生が大活躍して成功に導きました。

皆さんは大学進学や就職に県内外へと新たな船出をします。いきなり緊急事態の大波に直面しても、新商卒なら怯むことはありません。

先輩たちが母校創立時から守り伝えてきた葦原魂が伝統の大きな力となり皆さんを後押ししてくれるからです。

新商は全国指折りの歴史と実績を誇ります。

明治十六年の創立から今秋に百三十七年を迎えます。わが国は二百年余りの鎖国を経て、幕末から明治にかけて外国に門戸を開きました。新潟は明治元年に函館、長崎、神戸、横浜と並ぶ「開港五港」の一つです。

私たちの母校は日本海側唯一の開港場に立地、「ふるさとから近代日本を担う人材育成を」と、政財界人が熱い思いを結集して創立した学校です。創立以来の卒業生は三万五千人を越え、政治、経済、文化、スポーツなど各界で県内、国内から国際社会まで活躍してきております。

多くの先輩たちが母校の創立時から受け継がれてきた「進取の精神」と葦原魂を胸に、あらゆる困難に立ち向い克服してきました。

太平洋戦争では仲間が戦地に散り、現役生も新潟港で勤労動員による作業中に機雷に触れ命を落としています。先輩たちは悲しみを乗り越え、ふるさと新潟の経済界の再構築にいち早く立ち上がっています。

敗戦直後に校舎が全焼した際も、物資不足の中で同窓が結束して資材と資金の調達に奔走して新校舎を実現させました。

この輝かしい母校愛と葦原魂は皆さんにも脈々と流れ継承されていると確信します。

前例のないウイルスとの闘いは皆さんを迎える大学や企業、官公庁なども苦闘の日々です。まさに葦原魂の出番です。

葦原魂の心は「熱・誠・忍」です。いかなる時でも「情熱を燃やし、誠を貫き、耐え忍ぶ」心です。ピンチに強い人材として新たな世界で大いに力を発揮されてください。

県内、全国の各界で活躍する同窓会の先輩との触れ合いも大きな支えになります。百戦錬磨の先輩が皆さんと一緒に苦境を切り抜けてくれるはずです。

苦難の時こそ目標を高く掲げ志を強く持ってください。皆さんのご健勝とご活躍をお祈りします。

最後にこの難局に仲野校長はじめ教職員の皆様が母校のため日々ご尽力されております。同窓会一同心より感謝申し上げます。

令和二年　三月三日

葦原同窓会会長

高橋　道映